2020年6月14日の御報恩御講・創立記念御出払法要

慧光山 法遍寺（えこうざん ほうへんじ）について　　住職　近藤道正

法遍寺は、静岡県富士宮市にある「多宝富士大日蓮華山大石寺」を総本山とする日蓮正宗の寺院です。日蓮大聖人様の正しき信仰を人々に弘め、ここ愛知地域の全ての人々が真の幸せをつかむ為に、総本山第67世日顕上人が開基となって、昭和57年6月18日法遍院として設立され、平成20年12月23日には改築され、法遍寺となりました。日蓮大聖人の出世の本懐である三大秘法の大御本尊に帰依（きえ）し、破邪顕正の布教活動をさせていただいております。

① 講中のみなさまへ

「花は根にかへり、真味は土にとどまる」この御文は報恩抄の末尾のお言葉です。（御書1037頁）大聖人は、花はその元の根に帰り、果実の真味は本の土に留まる譬えをもって、大恩人の師匠、故道善房のもとに、自身の功徳が還りとどまることを示されたのです。道善房は最後まで念仏を捨てきれませんでしたが、大聖人は自らを草木、師匠は大地として、真の報恩のため当抄を認められ、墓前にて弟子に代読させたのです。華果成就御書には「米の精は必ず大地に還る」（1225頁　趣意）とも仰せのように、私たちの積み上げる妙法の栄養は大地の如き親や先祖に戻るのです。当抄冒頭の「自分が生まれた古塚を忘れない老いた狐」「命を救ってくれた少年を忘れず恩を報じた白い亀」が示す畜生の報恩に劣らぬよう、仏道に精進したいものです。

② 創価学会に籍を置くみなさまへ（破門以前の指導を紹介）

今回は、池田大作氏が「広布と人生を語る」の中で述べる指導を紹介します。「日蓮宗身延派にあっても、南無妙法蓮華経の題目を唱えている。御書もある。 経文も、法華経の方便品、寿量品等を読誦している。（中略）読む経文も唱える題目も、われわれと同じである。外見から見ればわれわれと同じように見えるが、それらには唯授一人・法水写瓶の血脈がない。法水写瓶の血脈相承にのっとった信心でなければ、いかなる御本尊を持つとも無益であり、功徳はないのである。すなわち『信心の血脈なくんば法華経を持つとも無益なり』なのである」（8巻22頁）とあります。あなたは現在の創価学会が、ここでいうところの日蓮宗身延派の姿となんら変わりがないことに気づくべきです。血脈と三大秘法総在の大御本尊を離れて大聖人の仏法はありません。正しい信仰を求めて下さい。

③ 仏教の法話は「おとぎ話ではないか」と思う人へ

釈尊は、自ら悟った甚深の法を人々に説くにあたって、様々な因縁（原因と助縁）、あるいは譬喩（たとえ）を説き、さらに多くの方便を用いて人々を導きました。中国の天台大師は、仏が譬喩を説くことについて、「樹を動かして風を教え、扇を挙げて月を喩う」と述べています。風そのものを見ることはできないが、樹が揺らぐことでその存在を知ることができ、天の月に気づかない人には、身近な扇を高くかざすことによって天月を気づかせることができるとの意味です。したがって、仏典の因縁や譬喩の部分だけを取り上げて「現実離れしている」、また単なる「おとぎ話」と思うことは、仏の真意を知らない浅薄な考えといえるでしょう。人生の豊かさを知るために、法遍寺においで下さい。お待ちしております

第41号

法遍寺から大切な皆様へ

2020年7月1日

日蓮正宗 年間方針

御命題達成の年

法遍寺・天晴寺支部活動方針

人材育成と折伏実践

年間実践テーマ

①勤行・唱題で歓喜の実践

境涯開く御題目を

正しい姿勢で実践

②異体同心の折伏で広布へ前進

僧俗和合

講中一結

③御講と登山の推進で人材育成

罪障消滅

一生成仏

〒488-0881
愛知県尾張旭市城山町三ツ池6075-1
（TEL:0561-54-9226）

相談無料